

食の開発は奥が深い

東海グラフィア印刷協同組合
理事長 杉山真一郎



早いもので今年ももう半分が過ぎました。今秋より、はがきが63円から85円に引き上げられる見込みとの記事を目にしました。近年、お中元やお歳暮、そして年賀状などについて廃止する企業が増えていると感じます。環境配慮が要因として挙げられますが、値上がりも少なからず影響しているのでしょうか。今年いただいた年賀状の中に印象のあることが書かれていました。2024年は日本の人口の半数が50歳以上になるという言葉です。

私は1974年、団塊ジュニア、第二次ベビーブーム世代です。我々の世代は200万人いました。その我々の世代が今年50歳になることが影響しているのかなと、その時思いました。世界の平均年齢を調べたところ、調査機関によって誤差はあるようですが、2022年の資料によると、日本は48.6歳だそうです。人口の半分以上が50歳、3割が65歳のような国ですから、そのような年齢になるのでしょうか。ちなみに、ドイツも同じくらいで47.8歳、アメリカは38.1歳、ベトナムやインドネシアは30歳前後、フィリピンにいたっては25歳程度だそうです。技能実習制度を通じて多くの東南アジアの方が来日されています。彼らの目には日本の社会はどのように見えるのでしょうか。

先般4月12日に(2023年)10月1日時点の人口推計が発表されました。それによると、総人口は1億2435万2千人と推計されています。前年同月に比べ59万5千人減少とのこと。さらに、日本国籍を持つ人々の人口は前年同月比で83万7千人減少し、1億2119万3千人ということ。率にしたら1%にも満たないような割合にはなりませんが、80万人という人口は県の人口で言えば佐賀県や山梨県が81万人程度、福井県が76万人ですから、それくらいの人口が減少したということ。そのように言葉を置き換えると大きな数字だとも感じます。

私の世代が200万人と申し上げましたが、今年20歳になる2004年生まれの世代は110万人、そして昨年2023年の出生数は75万人と推計されています。毎年160万人が死亡し、75万人が生まれ、80万人程度減少していくのが今の日本であることが分かりました。子供の数が減少し、大学への進学率は自治体等が支援制度を充実させる傾向にあり、ますます高くなることが予測され、高卒というのは文字通り“金の卵”になるでしょう。社員には、理論上、人手不足を解消するのは非常に難しい、人が辞めたから補充するという考えではなく、テクノロジー等を活用して

仕事のやり方を見直してほしいという話をしています。

ある勉強会で講師の先生が、所得分布を例に岸田総理は2021年所信表明演説の際、中間層の拡大という言葉が発したが、現実には団塊の世代が年金を受給するようになったことなどの影響もあって中間層が減少している。今までのものづくりの会社は家電であれ、食品であれ、NB品は中間層向けに開発してきたのではないかと。しかし、その中間層が減少していくと低価格帯はニトリやユニクロ、食品であればPB品が強い。今後、NB品はどこをターゲットに商品開発をするのかが問われるといった話をされていました。そして、今の日本は高齢化社会でもあります。統計的な視点ではそうなのでしょうから、ものづくりの開発は大変な時代になったと改めて感じながら拝聴しました。

その話をある食品メーカーのお客様にしたところ、その方からは食については子供の時に食べたものを大人になっても食べる。高齢化社会だからと言って高齢者向けの商品を考えるのではなく、子供を大切にすることが大事だというお話をいただきました。確かに、私が高齢者になってもハンバーガーやピザ、ケーキ、「ポテトチップス」は食べるでしょう。高齢になったからといって、おせんべいやお饅頭を今の高齢者のようなペースでは食べないかもしれません。私より下の世代の方が高齢者になった時、彼らはゴミを食べているかもしれません。なるほどなと思いました。同じ話を別のお客様に伺ったところ、その方はある世代をターゲットにするのではなく、食は世代で受け継がれてほしい。父母世代から子供へ、そして孫へと、そういうことを大切にしたい、そういう食品を開発していきたいとのご意見でした。素人的には、所得分布と年齢構成によりボリュームゾーン、今後増えるゾーンというのは明確になっているわけですから、そこに向かってどのように対策を講じるのかと単純に考えてしまいましたが、食の開発は奥が深いなとお客様のご意見を伺い感じました。

食品パッケージで最近感じたことを1つだけご紹介すると、私の祖母が生前PETボトルのキャップが固くて開けられないので開けてほしいとよく頼まれました。確かに固いなどは感じましたが、その後数年が経ち、先日ゴルフ場でPETボトルを購入した際、ますますボトルが薄肉化しており、キャップを開けた瞬間、ボトルから中身が飛び出し服が濡れることが2回ありました。加齢とともに今まで気付かなかったことに気付くようになるのだと思います。まだまだパッケージは進化、深化していかなければなりません。良いパッケージを作ることについては皆様と切磋琢磨し、サステナブルな業界にすることについては皆様と協力できればと思います。

GP 認定制度申請についてのお願い

GP マークの製品表示が可能となりました



全国グラビア協同組合連合会

平成20年よりグリーンプリンティング認定制度の受付（グラビアは第7回より開始）が始まっています。これまでの認定工場は、**68事業所**となっております。**今年度の目標は70認定工場です。**

GP 認定の取得によって、VOC 排出削減、CO₂の排出削減等の「環境保全」「省エネ・省資源」と「安全・安心」の確約をし、差別化が進む社会に対応し長期不況の厳しい中で勝ち残る最大の武器になると考えます。現在「日印産連」においてGPの周知活動が行われ、社会的な認知向上が進んでおります。

毎月「日印産連」において説明会が開催されております。この機会を逃さず参加されることを望みます。なお、グリーンプリンティング認定制度に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館8階

日印産連グリーンプリンティング認定事務局

(TEL: 03-3553-6123 FAX: 03-3553-6079 E-mail: gp-nintei@jfpi.or.jp web: <http://www.jfpi.or.jp/>)

※なお、GP マークが軟包装グラビア印刷製品（袋等）に表示が出来るようになりました。
「グリーンプリンティング（GP）マーク製品表示の手引き」をご参照願います。

【GP 制度概要説明会開催について】

- 毎月原則2日開催
- 参加費無料
- GP 制度と申請方法を分かりやすく説明
GP 認定制度の概要、GP 認定取得、GP マーク表示のメリット、GP 申請方法の概要等
- 当日、ガイドラインをお渡しします。
- GP 申請を希望する方で、まだガイドライン等を読んでいない方はこちらに参加の上、下記申請書作成説明会にご参加下さい。
- 各印刷部門共通です。
- 印刷業界内外問わず誰でも参加できます。
- 参加希望者は事務局にお申込み下さい。

【GP 申請書作成説明会開催について】

- 毎月原則20日開催
- 参加費無料
- 申請に必要な次の内容を具体的に説明
GP 申請書の書き方
添付書類作成方法
現地審査の内容等
- チェックシート記入の上、ご参加下さい。もちろん、不完全でかまいません。
- 参加希望者は事務局にお申込み下さい。

【グラビア印刷部門】

7月18日(木) 10:00~12:00 Zoom 開催

GP JAPAN

全グラ情報

2024年7月号 No.284 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



6月7日の全国グラビア協同組合連合会「第54回通常総会」終了後に開催された懇親会の様子。写真上段は、乾杯の発声を務めた九州グラビア協同組合の母里圭太郎理事長と九州グラビア協同組合員。写真下段は、中締めを担当した北海道グラビア印刷協同組合の若狭博徳理事長と各単組の理事長

CONTENTS

巻頭言 食の開発は奥が深い ①
東海グラビア印刷協同組合 理事長 杉山真一郎

GP 認定制度申請についてのお願い ③

全グラ
第54回通常総会、石川の開催から5年振りに福岡で ⑥
懇親会には賛助会員、地元含め93名が参加

GP 工場認定制度無料説明会のご案内 ⑫

組合員・単組の近況
関東プラスチック印刷協同組合：第61回通常総会を開催 ⑫
埼玉県グラビア協同組合：第55回通常総会を開催 ⑬
北陸グラビア協同組合：第63回通常総会を開催 ⑭
関西グラビア協同組合青年部：第26期通常総会開催報告 ⑮

**外国人労働者雇用労務責任者講習
～外国人雇用労務管理のポイント～** ⑯

Data Watch 2024年3月 ⑰

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2024年4月 … 42

Packaging

- 第63回 ジャパンパッケージングコンペティション …… 46
D2C向けパッケージ、リサイクルアルミ缶などが受賞

Information

- シンク・ラボラトリー、ERAに加入 …… 14
サカイクス、金属スクラップ等のリサイクル実証実験へ …… 14
日本印刷産業連合会、新会長にTOPPAN HDの磨 秀晴氏 …… 23
日本食品包装協会、セミナー「世界の食品包装に与える
EUの包装・包装廃棄物法令のインパクト」を開催 …… 29
大日本印刷、パルプ回収率85%以上を有するモノマテリアル紙製
ハイバリアパッケージ開発 …… 48

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。
e-mail:zenkoku-grv@utopia.ocn.ne.jp



発行：2024年7月10日
発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
発行所：全国グラビア協同組合連合会
〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9
あさひ墨田ビル
TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814
編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
渡邊富美子（同事務局）、酒井由香（同）
編集協力：(株)加工技術研究会
印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2024

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

第54回通常総会、石川の開催から5年振りに福岡で

懇親会には賛助会員、地元含め93名が参加

全国グラビア協同組合連合会は、2024年6月7日（金）午後4時より、オリエンタルホテル博多において第54回通常総会を開催した。当日の出席理事は、田口 薫会長（関東グラビア協組：大日本パッケージ(株)）、安永研二副会長（同：東包印刷(株)）、竹下晋司副会長（関西グラビア協組：(株)ダイコー）、石井 純副会長（関東プラスチック印刷協組：(株)多連堂）、杉山真一郎副会長（東海グラビア印刷協組：富士特殊紙業(株)）、母里圭太郎副会長（九州グラビア協組：(株)平野屋物産）、若狭博徳副会長（北海道グラビア印刷協組：(株)北海サンコー）、袖山高明専務理事、吉原宗彦理事（関東グラビア協組：東京加工紙(株)）、山下雅稔理事（同：(株)巧芸社）、東 勇一理事（関東プラスチック印刷協組：(株)トーショー）、市村清一理事（埼玉県グラビア協組：(株)ダイトー）、佐伯陽子理事（同：(株)佐伯紙工所）、大野寿之理事（北海道グラビア印刷協組：極東高分子(株)）、浮田信也理事（東海グラビア印刷協組：大和産業(株)）、高桑真樹理事（関西グラビア協組：(株)ガイドー）、賀谷真尚理事（北陸グラビア協組：賀谷ゼロファン(株)）、織田憲三理事（同：アートパックス(株)）、中村政晃理事（九州グラビア協組：(株)三裕商会）の19名。加えて、橋本 章監事（関東グラビア協組：橋本ゼロファン印刷(株)）、都築晋平顧問が参加。また、諸石武士氏（関東グラビア協組：大日本パッケージ(株)）、大野広記氏（東海グラビア印刷協組：(株)ライブオール）、森井克也氏（同：大和グラビヤ(株)）、重松雅人氏（同：大和産業(株)）、竹下 元氏（関西グラビア協組：(株)ダイコー）、中西孝夫氏・大谷泰弘氏（同：日大グラビア(株)）、鈴木宏賀司氏（関東グラビア協組：(株)千代田グラビヤ）、安保浩司氏・近藤大輔氏（九州グラビア協組：(株)メイワパックス 八千代工場）、西川暁大氏・松本勝孝氏（同：(株)丸本）、染原國裕氏・森 一敏氏（同：(有)染原化工）、兼武雄也氏（同：(株)敬雄社）、小宮由彦氏（同：(株)平井印刷）、平田哲也氏（同：丸栄産業(有)）、中村光宏氏（同：(株)肥後ポリエチレン）、山川英世氏（同：(株)巧芸社 福岡工場）、植村公裕氏・松野朋宏氏（同：日ポリ産業(株)）、出口忠明氏（同：(有)サングラビア）、東 徹哉氏（同：清和パッケージ(株)）、川口昭典氏・井上健児氏・蓮尾 真氏（同：(株)清和 福岡工場）の19社26名の組合員がオブザーバー参加した。コロナ禍で、地方での開催は2019年の石川県以来5年振りとあって、総会には賛助会員、地元九州の単組組合員等を含め83名が、その後の懇親会には93名もの参加があった。

ひとり我慢はやめませんか

開会に先立ち、**田口 薫会長（関東グラビア協組最高顧問：大日本パッケージ株）**は次のように挨拶した。

「本日は 93 名というたくさんの方々に参加いただいています。北海道から九州までのグラビアの仲間、地元の同業の方々、そして賛助会員のフィルム、インキ、機械メーカーの方々にもたくさん来ていただいています。この業界に対し、皆さんの関心が高まっています。今、50 年に一度の大変な波が来てい



田口会長

ます。約 50 年前の 1973 年 10 月、第四次中東戦争の勃発により、原油価格がいきなり高騰し、トイレットペーパーや洗剤を求めてスーパーに行列ができました。当時、私は会社で走り使いの営業をしていました。組合が何をやっているかも分からず、組合があること自体も知りませんでした。ところが、インキが、過去にさかのぼって 30%、50%という値上げが来ました。どうしたらよいのかわからずにいると、組合で大会を開くから来いということで参加し、そこで、石油情勢について少し理解し、翌日から加工賃の 5 割アップをお願いして回りました。若造が行っても上げることができ、とうとう、加工賃は 2.5 倍になりました。あの時、値上げができていなかったのなら、今、我々はいません。当時、私の会社は、扉には隙間があり、屋根はトタン葺き、壁はスレート、そんなところで食べ物の包材を印刷していました。ちょうど軟包装衛生協議会（1975 年 1 月設立）が発足した頃ですので、組合を通じて工場の衛生基準を手に入れ、小さな工場でしたが作り直しました。それ以降、大気汚染防止法などの規制に対しても、何とか自前で乗り切ってきました。海外なら、法規制が強化され、負担増が発生したのなら、すぐに価格転嫁するはずですが、日本は我慢しました。33 年間、価格を上げなかったのです。韓国は給料が倍になり、国内でも人の取り合いが始まっています。海外技能実習生のベトナム人も取り合いです。ベトナムも高度成長期にあり、10 年そこそこで給料は倍になるでしょう。そうした最中に我々は置かれています。本日は製袋メーカーさんにも来ていただいています。その方々も価値がある存在です。絶対に必要です。我々がいなくなると、たちまちにサプライチェーンは止まってしまいます。

世界には売上 2 兆円の包材メーカーが 2 社あります。アムコアとフッタマキです。彼等は M & A で巨大化しています。また、利益率 10%を経営目標にしていますから、儲からなかったら即座に工場をたたんでしまいます。しかし、日本人は、儲からなくても工場を手放しません。ですが、それはもうやめるべきです。赤字続きでは無理です。日本国内には千数百台のグラビア印刷機があり、新台は年に 15 台、18 台しか売れません。

人手不足ですし、7 年前、技能実習制度があるよと手を上げ、エントリーし、外国人技能実習生が入ってきました。はっきりした数字は分かりませんが、グラビア印刷業界（全

グラ以外のアウトサイダーも含め)では400～500人は働いていると思います。オフセット印刷では1500人、製本も1500人働いています。その後、研修生ではなく、特定技能に変わるということで、組合員から、「会長、どうするの。うちにもいるが、帰ってしまったらどうするんだよ」。こう言われると全グラとしても動かざるを得ません。彼等がいなくなれば、サプライチェーンは止まってしまいます。我々は印刷ではなく、ミクロン単位のフィルムを貼り合わせたりして、凄いものを作っているのですよ。ハイテクなんですよ、と関係方面にお願いし、どうやらバスに乗ることができました。外国人に来てもらい、社長、部長、課長、係長が外国人でもいいのではないですか。

価格転嫁をしっかりとやっていきましょう。何故、躊躇するのですか。我々がいなくなったらどうなるのですか。ドンドン説明して行ってください。全グラは国に認められたのです。国が重要度を理解してくれたのです。組合員企業であれば外国人を雇用できるのです。我々は凄いものを作っているということを声高に言ってください。安値受注を続けていてはしわ寄せが及びます。会社がなくなってしまう。50年に一度の変化、人手不足が起き、我々の業界に人が集まらなくなると大変なことになります。我々は大事なものを作っているのです。安い賃金で使うことはできません。



袖山専務理事

パートナーシップ構築宣言は、大日本印刷、TOPPAN、レンゴーさんも出していますので、世の中、変わりました。この変化に追随して行ってください」

袖山高明専務理事より、8単組21名中、本人出席19、委任状2名であることが告げられ、今年の総会幹事である九州グラビア協組の母里圭太郎理事長（全グラ副会長：(株)平野屋物産）が議長に就任し、



母里副会長

議案が審議された。

■ 2023年度の総括

第1号議案は「令和5年度（2023年5月～2024年4月）事業報告書及び決算関係書類承認の件」。安永研二副会長（関東グラビア協組副理事長：東包印刷(株)）より下記のような令和5年度事業報告がなされた。

令和5年度（2023年5月～2024年4月）は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類へ変更になった影響が顕著に現れ、インバウンド需要の回復や国内観光等々も徐々に回復基調に向かい、様々な分野で景況感が改善しつつある。当業界においても、大手コンバーターを含め値上げの動きが一段と加速し



安永副会長

たが、一部、中小コンバーターの値上げの動きは未だに鈍く、賃金に反映するには至っていない。賃金アップによる景気の好循環になるどころか、賃金が上がる前に諸物価が上昇し、消費全体の回復を遅れさせた。年後半には、為替相場が円安に振れたことで原材料価格が一段と上昇、食料品をはじめとした各種生産財の価格を押し上げた。その結果、株価が30年ぶりに最高値を更新したにも拘わらず、実感としての景気回復感に乏しいのが実情である。さらに、従来若年労働力不足が指摘される農業等の一次産業のみならず、製造現場においても人手不足は深刻な様相を呈してきた。受注はあるが人手不足で機械を動かせない等、以前なら考えられない状況も発生しつつある。加えて働き方改革の一環で長時間の過重労働削減の動きが加速、特に物流業界においては、ドライバーの残業規制のため「物流の2024年問題」として一気に表面化してきており、年度末には印刷インキ工業会から正式に受発注サイクルの見直しを含む物流改善の申し入れがあった。

2021年より原油高の影響により印刷の主要資材であるインキ・溶剤・フィルムをはじめとした石油化学製品などの大幅な値上がりが続く、一部では、フィルム材料の供給不足が起こり、受注残を抱えながら稼働が停止する状況にまで追い込まれる事態も発生、組合員の事業活動に深刻な影響が及んでいる。こうした中で、全国グラビア協同組合連合会においては、価格転嫁をメインとした取引改善に向けた活動を強力に推進した。組合員各位の理解と協力により価格転嫁は前進し、実質的な増収基調となってきた。バブル経済が崩壊して以来、30余年続いたデフレ経済からようやく脱却、インフレに向かう潮流の中で、依然として価格改定を見送り、商品によっては価格引き下げを実施しているのが大手流通・小売事業者である。仕入先からの値上げ要請に対し頑強に抵抗しながら、低価格のPB（プライベートブランド）商品を拡充させている。そのため、食品メーカーを主要得意先とする当組合員の値上げ交渉も難航し、企業経営が圧迫され続けている。他方、大手コンバーターでは強硬な値上げの動きが見られ、それを拒んだ食品メーカーが中堅コンバーターに発注を回すも、元々あまりにも安値で発注していたために引き受け手がいないという状況も発生した。

また、印刷産業の中では比較的安定しているといわれる軟包装グラビア印刷においても、海洋プラスチックごみ問題から派生した、プラスチックは「悪」のイメージが多くのメディアから発信され、間違った認識が一般社会に広まり続けている。それ故、社会に不可欠な軟包材の供給責任を担う当連合会としては、こうした状況を業界存続の危機と捉え、「軟包装価値向上委員会（仮称）」を発足、関係者の熱意により『軟包装のキャッチコピー』が誕生した。**【目立ってしましますが、実力もすごいのです】**とのキャッチコピーを旗印に、

社会インフラを担う産業であるとの広報活動を開始した。軟包装を「ソフトパッケージ」と言い換えた新たなイメージ戦略を推進し「入れる」「届ける」「保つ」「伝える」という4つの機能を紹介する文書を、関係省庁・団体に発信、同時に当組合機関誌『GPJAPAN』に掲載し啓蒙に努めた。さらに2023年7月6日に改訂版 Ver02 を発表、「閉じる」「届ける」「保つ」「伝える」として啓発活動を推進している。

2020年より「外国人技能実習制度」の評価試験実施を開始、出張試験は回を重ね累計90回の実施となった。2023年10月には大阪に待望の民間試験施設「岬試験会場」を開設し、『何とか自社の工場稼働を止めずに試験実施が出来ないか』と言う組合員の要望をくみ上げることができた。また、日印産連を通じた「特定技能」職種の認定要請の結果、2024年3月29日の閣議決定にてグラビア印刷作業職種が追加されることになり「技能実習制度」3年と「特定技能1号」5年と合わせて8年間の外国人就労の道が開かれることとなった。



橋本監事

全グラの運営にあたり、組合員各位にはこの一年を通じて、ご支援を賜り、深く感謝申し上げます次第です。

引き続き、袖山専務理事が令和5年度の決算関係報告を行い、橋本章監事（関東グラビア協組理事：橋本ゼロファン印刷株）が監査報告を読み上げ、議長が出席理事に承認か否かを求めたところ、「損益計算書の記載の仕方に不備があるので、今後はきちんと記載してほしい」との異議が出され、事務局より、「承りました」との返答があり、承認された。

■ 2024年度の事業活動



竹下副会長

続いて、第2号議案「令和6年度（2024年5月～2025年4月）事業計画、収支予算並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件」に移り、竹下晋司副会長（関西グラビア協組理事長：株ダイコー）が令和6年度事業計画（案）の事業方針について、次のように説明した。

2023年度の日本経済は、昨年5月、新型コロナウイルス感染症の位置付けが「2類相当」から「5類」へ変更になったことに伴い、人の移動も回復、コロナ禍でダメージの大きかった外食産業や旅行関連産業もほぼ正常化するなど、全産業にわたり企業活動もコロナ前の状況に戻りつつある。外国人旅行者数の回復も顕著となり、インバウンド需要も拡大が続いている。

他方、3年目に入ったロシアのウクライナ侵攻に加えて、昨年10月に勃発したイスラ

ム組織ハマスの襲撃に端を発したイスラエルによるガザ地区への攻撃、そして今年4月にはイスラエルとイランが衝突するなど、近年にないほど地政学リスクが高まり、欧米諸国の金融政策等による円安進行と相まって原油価格が再び騰勢を強めている。

その結果、原材料価格の上昇があらゆる産業に波及し、消費者物価指数も2%をはるかに超える上昇が続き、22カ月連続（2024年3月現在）で実質賃金が減少、消費低迷に拍車をかけている。こうした状況を受けて、政府は価格転嫁と賃金の引上げを経済界に強く求め、今春、大企業は1991年以来33年振りとなる平均5.58%（経団連）の賃上げを実施した。しかし、中小企業における価格転嫁と賃上げ状況など経営環境は依然として厳しく、倒産件数が急増している。その背景には、コロナ禍で中小企業を資金面で支えた実質無利子・無担保のいわゆる「ゼロゼロ融資」の返済が昨夏から本格化した影響も大きい。

当業界においても、インキ、溶剤、フィルム等の値上げの動きが止まらない。2024年度においても、際限のない原材料価格の高騰が我々の事業活動に大きな影響を及ぼすものと思われる。また、人材不足や物流業界のいわゆる「2024年問題」は深刻であり、大きな経営課題の1つである。中小企業、特に我々のような中小の製造企業が生き残っていくためには、エネルギーコストを含めたすべての原材料価格上昇分の確実な価格転嫁に加え、人材確保のために賃金水準を引き上げるだけでなく、個々の企業が有している経営資源を十分に活かしながらその強みを磨き、時代の変化に適応する経営が、かつてなく求められている。

2024年度、全グラでは上記の諸課題を含め我々が直面する様々な課題に取り組んでいく。特に、外国人『特定技能制度』と新たに創設される『育成就労制度』の特定産業分野に全グラが認定された責務を果たすべく、その体制構築を重要事業と位置付けて取り組んでいく。本件は、関係省庁に対して当連合会が社会インフラを担う産業であることを強く訴え、その重要性が認められた結果であり、円滑に制度を運用していくことが、当業界の



存在価値向上につながると思う。

また、(一社)日本印刷産業連合会が認定する印刷業界の環境マーク「GP 認定制度」の新規取得を推進する。SDGs と紐づけされている GP 認定を取得することは、地球環境の負荷を低減させるだけでなく、企業価値向上につながることを啓蒙していく。2023 年度、GP 認定工場の目標を 70 事業所としていたが、66 事業所に終わった。今期中には 70 事業所が達成できるよう GP 制度の重要性を訴えていく。併せて、GP マーク製品表示についても、より一層の理解が得られるよう GP 認定事業所に対して PR 活動を推進し、GP 環境大賞『パッケージ印刷部門』と GP マーク普及大賞『グラビア・シール・スクリーン印刷部門』において、継続的に全グラ組合員およびその得意先が受賞できるよう GP 制度の普及活動を展開していく。

加えて、海洋プラスチックゴミ問題を契機としたプラスチック包材への偏見に満ちた報道は、社会インフラを担っている我々の事業活動に深刻な影響を及ぼしている。当連合会では、業界存続の危機と捉え、『軟包装のキャッチコピー』を作成し広報活動を展開している。今期においても、そのキャッチコピー【目立ってしましますが、実力もすごいのです】を活用しながら、食品・日用品・医薬品などの流通を可能にし、フードロスの削減に大きく貢献している当業界事業の重要性を発信していく。

全グラとしては、組合員個々が業界の範となり、社会全体からの信頼される存在となるよう最大限のサポートを行うべく下記の事業活動を実施し、組合員並びに賛助会員各位のご協力をお願いしたい。

事業活動の骨子は以下の通りである。

1. 「特定技能制度」「育成就労制度」の受入れ体制の構築と技能実習評価試験の実施体制の拡充



2. 省エネ、省資源とプラスチック資源循環による地球環境保全への対応
3. 全国グラビア協同組合連合会として「(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)」、関係行政官庁との連携を強化し、経済支援策・下請適正取引・優越的地位の乱用等に迅速に対応
4. SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献
 - ①「グラビア印刷(軟包装)グリーン基準」に基づく GP 認定制度の啓蒙と認定取得の奨励・周知活動
 - ②「規制と自主的取組のベストミックス」による VOC 排出削減へ向けての支援
 - ③地球温暖化防止のための CO₂ 排出量削減への取組
 - ④省エネ法への対応の取組
 - ⑤環境関連条例等への対応策の検討と規制緩和の推進
 - ⑥海洋プラスチックごみ問題について関連業界・団体・メーカーとの連携により資源循環の情報収集と推進
5. 会員・賛助会員の増強
社会インフラを担う業界団体として、地位向上と当組合員ならびに関連業界・団体・メーカーの事業拡大のため、組合加入促進を図る
6. 日印産連への積極的な参加と関連業界団体との連携強化
7. 青年部の育成と拡大
8. 「GPJAPAN」の内容充実と広告獲得、拡販
9. ホームページの運用と広報活動による情報発信
10. 消防法、有機溶剤中毒予防規則、改正大気汚染防止法、改正食品用器具及び容器包装など関連法規、働き方改革、民法改正等の周知と遵守の推進



11. 新型コロナウイルス感染症の予防対策の周知と行動の徹底

引き続き、袖山専務理事が令和6年度収支予算案、並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件について説明し、承認された。この後、母里議長が第3号議案「令和6年度借入金残高の最高限度決定の件」について諮り、こちらも提案通りに承認された。

i Information

シンク・ラボラトリー、ERA に加入

ERA (European Rotogravure Association) は、drupa 2024 展示会の期間中、シンク・ラボラトリーを新メンバーとして迎え入れた。1966年に設立され、千葉県柏市に本社を置くシンク・ラボラトリーは、高度なレーザーグラビアシリンダー製造システムと軟包装用インクジェットプリンターの開発と製造のリーダーである。

140人の従業員を擁し、38カ国250社以上の企業にサービスを提供している。全自動グラビアシリンダー製造システム「New FX」シリーズやインクジェットプリンター「FXIJ」シリーズなどの革新的なソリューションは、自動化、環境の持続可能性、最先端技術への取り組みを具現化している。同社には、高解像度レーザーシステムや高度な画像処理ソフトウェアなど、最先端の機械が設置されている。



サカタインクス、金属スクラップ等のリサイクル実証実験へ

サカタインクスは、エムエム建材と金属スクラップ等のリサイクルについて実証実験を開始した。この実証実験では、すでにサカタインクス大阪工場、東京工場で発生している運搬用のドラム缶や石油缶、コンテナといった廃棄物や、廃却となった生産設備などのリサイクルを実証実験の形で進め、その有効性

を確認している。

今後は環境面、経済面でのメリットを実績として算出するとともに、資源リサイクルのパートナーを募集し、廃棄物の再資源化に向けた一連のスキームを構築していく。今秋頃を目途に、顧客や同業他社をはじめとした印刷関連業界への展開を開始していく予定。

★全グラ理事会★

手形サイト 60 日に。パートナーシップ構築宣言を熟読しよう

総会終了後、約 10 分間の休憩を取り、午後 4 時 50 分、理事会が開催された。

田口会長より、最近の動きとして、「特定技能 1 号」印刷業種にグラビア印刷が追加認定され、全グラに所属していることが要件となるため加入希望が増えていること、専務理事の仕事をサポートする人材を増やす必要があること等について情報共有があり、理事会がスタートした。議題とポイントは次の通り。

1. 今年度事業計画（重点項目）

- ①「特定技能制度」「育成就労制度」の受入れ体制の構築と技能実習評価試験の実施体制の拡充
- ②省エネ、省資源とプラスチック資源循環による地球環境保全への対応
- ③「グラビア印刷（ソフトパッケージ＝軟包装）グリーン基準」（GP 認定）の啓蒙と認定取得の奨励・周知活動



山下理事

山下雅稔理事（関東グラビア協組副理事長：(株)巧芸社）から次のような依頼があった。

2024 年度に、全グラとして GP 認定工場 70 を目標にしている。昨年度も 70 事業所を目標にしていたが達成できなかった。今期、是非とも達成したい。過去数年、全グラの認定工場数の伸びは低迷している。環境負荷の高い産業であるグラビ印刷として、GP 認定を取得することが、グラビア業界の価値を高め、各社の企業価値を高めていくことにつながるの、ご参集の皆様、取引先の皆様でまだ取得されていない企業に PR し

ていただきたい。GP 事務局からは、「クライアント側、お客様の側から、GP マークを表示したい。しかし、印刷会社に聞いたところ、GP 認定工場ではないので、付けられません。であれば、GP 認定を取得してくださいと、お客様が印刷会社に依頼するケースが、昨年、一昨年とかなり増えている」という話があるので、我々の業界の共通認識として GP マークをさらに啓蒙していきたい。是非、ご協力をお願いしたい。それから、GP マークの表示について、我々グラビア部門としても、GP マークを表示できるようになっている。昨年、一昨年と、我々の組合から GP マーク普及大賞・準大賞が選出されているが、こちらも企業価値向上につながるの、ご協力いただきたいとの要請があった。

なお、「2024 GP 環境大賞」「2024 GP マーク普及大賞」「2024 GP 資機材環境大賞」の表彰式は、2024 年 10 月 30 日（水）、日本出版クラブで開催される。小山薫堂 GP PR 大使のトークショー、懇親会も開催されるので、1 社でも多くのご参加をいただきたいと呼びかけていた。

④下請法及び優越的地位の濫用等への対応と関連行政官庁との連携強化

安永研二副会長（関東グラビア協組副理事長：東包印刷(株)、袖山専務理事より次のような説明があった。

公正取引委員会および中小企業庁は、今年4月30日付で約束手形等の交付から満期日までの期間の短縮を事業者団体に要請した。

それによると、2024年11月1日以降に交付された手形等（手形、一括決済方式または電子記録債権）のサイト（交付日から満期日までの期間。一括決済方式の場合は、代金の支払期日から代金債権の額に相当する金銭を金融機関に支払う期日までの期間）について、業種を問わず、60日を指導基準とする。このため、下記がポイントとなる。

- ・サイトが60日を超える手形等を「下請代金支払遅延等防止法」（下請法）の割引困難な手形等に該当するおそれがあるものとして指導対象とする。
- ・ファクタリング（売上債権（売掛金・受取手形）の総合管理を引き受けるサービス）等の一括決済方式については、サイトを60日以内とすることに加え、引き続き、一括決済方式への加入は下請事業者の自由な意思によること並びに親事業者、下請事業者および金融機関の間の三者契約によることを徹底すること。
- ・下請法対象外の取引についても、手形等のサイトを60日以内に短縮する、代金の支払をできる限り現金によるものとするなど、サプライチェーン全体での支払手段の適正化に努めること。

なお、2021年6月18日の閣議決定で、2026年をめどに紙の約束手形・小切手の利用廃止を決定している。これに代わるものとして、次のいずれか。①現金による支払（インターネットバンキングによる銀行振込を含む）、②電子記録債権（でんさい）による支払。全国銀行協会では、これを受け、「手形・小切手機能の全面的な電子化に向けた自主行動計画」を策定・改定し、「2026年度末までに電子交換所に持出される全ての手形・小切手の交換枚数をゼロにする」としている。



吉原理事

安永研二副会長（関東グラビア協組副理事長：東包印刷(株)、**吉原宗彦理事**（関東グラビア協組理事長：東京加工紙(株)）から、「パートナーシップ構築宣言」について次のような説明があった。

「パートナーシップ構築宣言」を行っている企業（HPに企業名、代表者名が公開されている）と取引のある場合、「パートナーシップ構築宣言記載要領」を熟読し、そこに書かれていることが履行されていないのであれば、情報提供をしていただきたい。

ちなみに、「価格決定方法」には次のような記述がある。

不合理な原価低減要請は行わない。取引対価の決定に当たっては、下請事業者と少なくとも年に1回以上の協議を行うとともに、下請事業者の適正な利益を含み、下請事業者における労働条件の改善が可能となるよう、十分に協議して決定する。

原材料費やエネルギーコストの高騰があった場合には、適切なコスト増加分の全額転嫁を目指します。

⑤各単組および青年部による見学会・講習会・セミナー・分科会発表等の開催

2. 「日印産連」関連

①印刷功労賞と印刷振興賞の推薦

②委員会、部会等の全グラからの派遣委員

3. その他

①価格修正についてのお願ひ文の作成について

②不条理な取引事例の募集について

価格転嫁も大事だが、異常・過剰品質問題、中身入りで返品され、損害賠償請求される。印刷が入っているので、転売もできない。これは良好な取引とは言えない。具体的事例を出してもらい、故・村田英雄専務理事の時代に、不条理な取引事例を組合員から出してもらい、行政に情報提供したことがあるが、引き続き、行政側に提供していきたい。



★全グラ懇親会★

九州グラビア協組も元気、やる気、負けん気、一緒にやります



森部長



和田社長

午後6時より、時折、博多弁を交える九州グラビア協組青年部の森 一敏部長（有染原化工 社長）の司会のもと、懇親会がスタートした。

田口会長の「日本商工会議所の6月5日発表による、2024年4月時点の中小企業の賃上げ状況調査によると、2023年4月と比べた正社員の賃上げ率は加重平均で3.62%とのことですが、もっと上げなければならない。そうしないと、需要が戻ってきません。賃上げをお願いします」との挨拶に引き続き、賛助会員を代表し、富士機械工業(株)の和田龍昌社長が次のような挨拶を行った。

「昨年、コロナが5類に移行し、移動制限も撤廃、環境問題、少子高齢化による慢性的な人手不足、原材料・エネルギー・人件費の高騰、皆様、私どもも含め頭を悩ます日々が続いています。そうした中、毎日耳にする言葉に持続可能性があります。環境問題は我々軟包装業界にとって不可避な課題です。再利用可能な素材の使用、廃棄材の削減は環境負荷の低減として一丸となって取り組んでいます。環境対策に終わりではなく、より効果的な方法を模索し、取り組んでいかねばと考えています。そうした中、業界が連携を図っていくことが重要です。こうした会合を通じ、知識、経験、志を共有し、より良い未来を築く活動を共に模索することができれば、業界として盛り上げていけるのではと思っています。賛助会員としましても、皆様のニーズに応えることのできるサービスや製品を提供し、業界の成長をサポートし、業界発展に貢献するよう取り組んでまいります。もう1つ、持続可能性でお話したいことは、社会の持続可能性も大事ですが、会社が持続しないことにはどうしようもありません。最近、採用面接で若い人と話すと、『業界、仕事のやりがいは何ですか』という言葉聞くようになりました。給与水準も重要ですが、それに付随して、やりがい何かということに重要視している人が増えているように思います。『目立ってしまいますが、実力もすごいのです』というソフトパッケージもそうですし、農林水産省の『食品ロスの削減に資する容器包装の高機能化事例集』では、容器包装が食品ロスに貢献していることが具体的に示されています。新入社員に、『この業界は社会貢献し、重要なんだよ』と説明することができますので、全グラさんにはオフィシャルな発信を頑張っていていただきたいと思います。我々賛助会員もできることは積極的に協力していきます」。

九州グラビア協組の組合員が登壇し、乾杯の発声は、**母里圭太郎理事長（株平野屋物産）**が務め、「福岡の地で皆さんとお会いでき、本当に嬉しいです。福岡は、駅、空港、港、商業地区が2.5kmの範囲内にある世界でも有数のコンパクトシティです。この懇親会で親交を深め、人手不足、価格交渉に立ち向かい、一丸となって業界を盛り上げていきましょう。九州グラビア協組も元気、やる気、負けん気、一緒にやります」との挨拶の後、円卓を囲んでの歓談に入った。



九州グラビア協組会員と、乾杯の発声をする母里理事長



川島さん



若狭理事長

宴たけなわの午後8時頃、九州グラビア協組事務局の**川島春広氏（株平野屋物産）**が、2次会の会場について説明し、登壇した8単組の組合長の中から、**北海道グラビア印刷協組の若狭博徳理事長（株北海サンコー）**が、次のようなローカル色たっぷりの中締め挨拶を行った。

「（総会での）田口会長の話が長いのは分かっていましたが、和田龍昌社長（富士機械工業株）が立派なお話をされたので、プレッシャー度が上がってしまいました。まずは、今回の段取りをしていただいた九州グラビア協組の皆さん、本当に御礼申し上げます。

懇親会、非常に楽しみにしていました。九州のお酒をいっぱい飲めるのかなと。ところが、一昨日の夕方、専務理事から、『中締め、頼むね』という電話が入り、私にとっては悪魔のささやきで、これは飲んではいられないなとなってしまいました。私の本番はこれからの2次会にかかってい

ます。冗談はさておき、九州とは馴染みのない北海道ネタを幾つか披露させていただきます。

温暖化の中、6月5日、スルメイカの初水揚げがありました。昔は何トンという量でしたが、一昨日は約113kgしか揚がりませんでした。最高値は1kg8000円と、地元の人の口には入らない値段です。明日の観光ルートの呼子の朝市が楽しみです。

もう1つ、北海道にはヒグマがいます。体長2m、3mクラスの大きな熊で、時速60kmで走ります。温暖化が理由で、山に木の実がなくなってきて、それが故に、最近では、スーパーのイオンの前を走ったり、街中の住宅街を駆け巡ったりしていて、震え上がってしまいます。地球温暖化は他人事ではありません。

次は人手不足についてです。インバウンド需要の増大で北海道では人手確保が難しくなっています。人口は約511万人しかいませんので、それで全てを回すのは無理になってきています。ホテルのベッドメイキングの方の時給は2500円、ニセコ地区においてはホテルの従業員は3000円以上の時給です。その意味では、日本の中で北海道は最先端を行っています。

人手不足で、時給は跳ね上がる、そうした中で我々は事業をやっていかねばなりません。先ほど会長が『給料、いっぱい上げましょう』とおっしゃっていましたが、本当に上げないと人が集まりません。漁業をやる人もいなくなっていますし、農業をやる人もだんだん減ってきています。いつまで北海道が食糧自給率（カロリーベースおよび生産額ベース）200%超えと言われているかは分かりません。そんな状況にあります。

ですが、懇親会の様子を伺うと、まだまだやれるのではないかという思いもちょっと感じています。問題はやり方です。この産業をどう盛り上げ、持続可能な産業にしていくか、これは皆さんとともに知恵を絞っていかねばなりません。これからの組合活動が、より活発な意見交換の場となることを願っています」



後列左から、母里圭太郎理事長（九州グラビア協組）、竹下晋司理事長（関西グラビア協組）、賀谷眞尚理事長（北陸グラビア協組）、杉山眞一郎理事長（東海グラビア印刷協組）、市村清一理事長（埼玉県グラビア協組）、石井 純理事長（関東プラスチック印刷協組）、吉原宗彦理事長（関東グラビア協組）、手前、中締め挨拶を行う若狭博徳理事長（北海道グラビア印刷協組）

懇親会 snapshot



全グラ



■ゴルフと観光

総会翌日は、ゴルフ組と観光組に分かれ、ゴルフ組は朝6時にホテルを出発。名門、筑紫ヶ丘ゴルフクラブに32名が集まり、7時56分からプレー。

優勝は高桑真樹さん（株ガイドー）、準優勝は吉原宗彦さん（東京加工紙株）、第3位は田口 薫さん（大日本パッケージ株）と清水 計さん（DIC グラフィックス株）、ベストグロスに諸石武士さん（大日本パッケージ株）という結果になりました。他にどなたが参加し、成績はどうだったのかは順位表をご参照ください。

「天気にも恵まれ、親睦を深める良い機会となりました」と母里圭太郎さん（株平野屋物産）はコメントを寄せています。

順位	氏名	GR	HDCP	NET	備考
優勝	高桑 真樹	93	19.2	73.8	
準優	吉原 宗彦	92	18.0	74.0	ニアピン西6
3	田口 薫	96	21.6	74.4	
3	清水 計	96	21.6	74.4	
5	輪島 耕介	95	20.4	74.6	ニアピン西8
6	中村 光宏	99	24.0	75.0	
7	小宮 洋一	89	13.2	75.8	
8	竹下 元	107	31.2	75.8	
9	愛宕 広一	94	18.0	76.0	
10	田畑 隆宏	118	42.0	76.0	ニアピン西6
11	諸石 武士	87	10.8	76.2	
12	東 勇一	94	16.8	77.2	
13	森脇 拓也	100	22.8	77.2	
14	岡 雄太郎	123	45.6	77.4	
15	松浦 敦史	91	13.2	77.8	
16	西川 嘉明	103	25.2	77.8	ニアピン西8

順位	氏名	GR	HDCP	NET	備考
17	水野 徹	96	18.0	78.0	
18	蟻川 謙	107	28.8	78.2	
19	小宮 由彦	106	27.6	78.4	
20	母里 圭太郎	105	26.4	78.6	
21	後藤 正昭	110	31.2	78.8	
22	川口 昭典	94	14.4	79.6	
23	安保 浩司	112	32.4	79.6	
24	出口 忠明	117	37.2	79.8	
25	松野 朋宏	97	16.8	80.2	
26	濱 健	103	22.8	80.2	
27	石井 純	108	27.6	80.4	
28	大野 広記	113	32.4	80.6	
29	原田 秀典	100	19.2	80.8	
30	浮田 信也	102	20.4	81.6	
31	近藤 大輔	113	26.4	86.6	
32	賀谷 真尚	124	36.0	88.0	

i Information

日本印刷産業連合会、新会長に TOPPAN HD の磨 秀晴氏

日本印刷産業連合会は、2024年6月12日（水）にホテルニューオータニにおいて第39回定時総会を開催し、任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に磨 秀晴氏（TOPPAN ホールディングス代表取締役社長 CEO）が就任した。主な人事は以下の通り。

会 長：磨 秀晴（昇任）
副会長：堆 誠一郎（重任）、
瀬田章弘（昇任）、添田秀樹（昇任）
専務理事：緒方宏俊（昇任）
常務理事：高島淳一（新任）、
飯島由紀（昇任）



名護屋城址で記念撮影



7つのカマドを並べたような海蝕洞窟の1つに船で進入、神秘的な柱状の玄武岩を見学

一方、観光組 15 名は、ゴルフ組を送り届けた同じ西鉄観光バス（福岡ソフトバンクホークスの選手送迎に使われるバスで、ゆったりと座れました）で午前 8 時半にホテルを出発。マイクを握ると淀みなく説明が口からあふれ出て、どうにも止まらない、流石プロ！の添乗員とともに、福岡を通り抜け、一路、佐賀県唐津市鎮西町にある、豊臣秀吉が文禄（1592～93 年）・慶長（1597～98 年）の役の、国内補給拠点とした名護屋城址へ。大急ぎで、皆さん健脚ですね。本丸跡にたどり着き、これまた大急ぎで名護屋城博物館へ。その後、呼子朝市、マリンパル呼子七ツ釜クルーズ、魚処限界で北海道グラビア印刷協組の若狭博徳理事長お待ちかねのイカの活き造りを堪能し、唐津城を見学後、午後 7 時 25 分発の JAL 便にて羽田への帰路につきました。



唐津城

GP工場認定制度無料説明会のご案内

(一社) 日本印刷産業連合会・グリーンプリンティング認定事務局

(一社) 日本印刷産業連合会では、オフセット、シール、グラビア（軟包装）、スクリーンの4印刷部門の工場を対象に、印刷環境総合認定制度「グリーンプリンティング工場認定制度」を実施しています。本制度は、関係各機関からも取り上げられており、GPマークは社会に普及しつつあります。そこで、本制度の概要と申請書類等の取得方法についてご案内申し上げます。

申請用資料請求の方法は、当連合会グリーンプリンティング認定制度のホームページからダウンロードしていただくか、下記に記入の上、FAXにてお申し込み下さい。

GP説明会の開催は、東京にて毎月2日前後にGP制度概要説明会（所要時間約1時間30分）を、毎月20日前後にGP申請書作成説明会（所要時間約2時間）をZoom開催（無料）しています。作成説明会では実際の申請書類の書き方等について具体的にご説明します。参加希望の方は下記に記入の上、FAXにてお申し込み下さい。

メール：gp-nintei@jfpj.or.jp

FAX：03-3553-6079

TEL：03-3553-6123

日印産連 グリーンプリンティング認定事務局 行

年 月 日

オフセット印刷 シール印刷 グラビア印刷 スクリーン印刷 ※部門に○印をして下さい	資料	<input type="checkbox"/> 申請方法の手引き・ガイドラインを希望します ※希望の場合、上記□に▼印をして下さい （概要説明会に参加の方は当日配布します）	
会社名	説明会	<input type="checkbox"/> GP制度概要説明会 開催日： 月 日 出席者①： メール： 出席者②： メール： 出席者③： メール： 計 名	<input type="checkbox"/> GP申請書作成説明会 開催日： 月 日 出席者①： メール： 出席者②： メール： 出席者③： メール： 計 名
所在地 〒			
TEL () FAX () メール：			
ご連絡部署・担当者名	※希望の場合、上記□に▼印をして下さい ※開催日時はホームページか電話で確認して下さい ※キャンセル、人数変更は必ずご連絡下さい		

組合員・単組の近況

関東プラスチック印刷協同組合

第61回通常総会を開催

関東プラスチック印刷協同組合（石井 純理事長、(株)多漣堂）は、2024年5月21日（火）午後4時より、浅草ビューホテル「蔵前の間」において第61回通常総会を開催しました。



総会は遠藤佳男理事（株）マルタカ）の司会により、本人出席6名、書面出席5名、計11名出席のもと進行しました。議長には久保田龍一理事（山葉印刷株）が選出され、議事進行となり、第1号議案から第6号議案までの審議が行われました。

渡辺英和理事（株）トリネックス）により令和5年度事業報告及び決算関係書類の報告が行われ、続いて石井 純理事長から監査報告が、その他の議案を担当理事から報告があり、決議承認されました。来賓としてお越しいただいておりました東京都中小企業団体の三原浩造事務局長より祝辞のお言葉をいただき、小室敏明副理事長（有）墨田ポリ印刷所）による閉会の辞により、無事閉会となりました。

その後、会場を「大輪の間」へ移し、賛助会員様にもご出席いただき盛大に懇親会が行われました。

遠藤理事司会の下、石井理事長の挨拶に続き、賛助会員代表として（株）サンヨーケミカルの川口豪社長よりお言葉を頂戴いたしました。乾杯の発声を渡辺理事が行い、当組合の今年度を盛り上げるべく乾杯の音頭で心を一つにしました。

綺麗な夜景はそっちのけで、関プラらしい和やかなムードで時間もあっという間に過ぎていき、神南一宣理事（株）フタミ）の挨拶により閉会しました。



最後になりましたが、賛助会員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご出席いただきまして、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関東プラスチック印刷協同組合は業界の持続的発展に努めて参ります。



懇親会 snapshot



組合員・単組の近況

埼玉県グラビア協同組合

第55回通常総会を開催

2024年5月23日（木）午後4時より、ホテルメトロポリタン「ジュピター」において埼玉県グラビア協同組合（市村清一理事長、(株)ダイトー）第55回通常総会を開催しました。



市村清一理事長

司会者の青野 博事務局長（(株)ダイトー）が開会を宣し、市村清一理事長が挨拶をしました。総組合員4名全員の出席のもと、以下の議案審議に入りました。

第1号議案 令和5年度事業報告と決算承認の件

第2号議案 令和6年度事業計画書（案）と収支予算書（案）
並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件

第3号議案 令和6年度借入金残高の最高限度額決定の件

以上の件を審議し、満場一致で承認されました。今後の組合活動がさらに活発なものになることを期待し、通常総会を終りました。

引き続き、賛助会員と共に懇親会を開催しました。久しぶりの宴ということもあり、和やかに時は過ぎました。



総会の様子



懇親会の様子

組合員・単組の近況

北陸グラビア協同組合

第 63 回通常総会を開催

報告者：北陸グラビア協同組合 理事長 賀谷眞尚

北陸グラビア協同組合（賀谷眞尚理事長、賀谷ゼロファン(株)）は、2024年5月23日（木）午後6時30分より、金沢市の中心部にある金沢ニューグランドホテル3階の「犀江」において、第63回（令和5年度）通常総会および懇親会を開催しました。

出席は組合員8名、賛助会員10名で、審議の内容は以下の通りです。

1. 令和5年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案の承認の件について、監査報告は満場一致で異議なく承認されました。
2. 令和6年度事業計画及び予算案決定の件についても、原案の通り満場一致で承認されました。
3. 次期の役員改選と人事体制については、次期には現理事長が退任するため、次期理事長は織田憲三（アートパックス(株)）、副理事長に永野琢也（大ーグラビヤ印刷(株)）、新しい理事に賀谷壮佑（賀谷ゼロファン(株)）とすることが全員の賛成で承認されました。
4. 能登半島地震で全社が多少の被害を受けたため、令和6年度の組合賦課金を半額にする件は全員の賛成で承認されました。

総会での審議を終えた後、賛助会員を含めた懇親会に入り、午後9時頃に散会となりました。

i Information

日本食品包装協会、セミナー「世界の食品包装に与えるEUの包装・包装廃棄物法令のインパクト」を開催

日本食品包装協会は、2024年7月24日（水）午後3時30分～5時まで、「2024年度第2回食品包装セミナー」をZoomにて開催する。講師に、(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンの森 泰正氏を迎え、「世界の食品包装に与えるEUの包装・包装廃棄物法令（PPWR）のインパクト」をテーマに講演を行う。4月24日の欧州議会で修正を重ねたPPWR法案が賛成多数で採決され、今秋にはEU官報に掲載され正

式発効が見込まれている中、講演ではPPWRが世界の包装業界に与える影響について考察するとともに、世界をリードするEUの包装規制についての現状と今後を予測する。参加費は、日本食品包装協会会員3300円、一般5500円（1件の申込みに対して1名の視聴）。申込みは、同協会HP (<https://shokuhou.jp/news/news2685/>) の申込みフォームもしくはFAX (03-3669-1244) にて申し込む。

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

第26期通常総会開催報告

関西グラビア協同組合青年部(森脇拓也部長、森脇鉄工株)は、2024年6月14日(金)午後6時からANAクラウンプラザホテル大阪「高砂の間」(大阪府大阪市北区堂島浜1-3-1)において30名参加のもと、第26期通常総会を開催しました。



森脇青年部部長による
開会挨拶

総会は、事務局の司会によって進行し、開催に際し**森脇拓也青年部部長**が、多数の会員に出席いただいたことへの謝意とともに、「私が青年部部長に就任して1年となりました。この1年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで経済活動も組合活動も正常化し、青年部も例年通り全行事開催することができました。昨年11月には青年部全国大会が行われ、多くの方が栃木県の日光に集い、大変盛り上がりしました。また、関西が継続的に開催し、全国でも注目されているグラビア技術研修会も17回目となり、今年は関西以外のエリアからもたくさんご参加いただきました。このように全国で

の交流会を通じて活動の輪が広がっていることを感じています。親組合では5月に鹿児島県にて記念総会が開催されました。そして先週、全国グラビア協同組合連合会の通常総会が九州・博多で開催され、理事会では田口会長から価格改定、特定技能制度、支払い条件の改正、パートナーシップ構築宣言など多くのテーマについてお話がありました。それらの実現のため、全国グラビア協同組合連合会ではグラビア業界の地位向上を図り、お客様にその価値を認めていただき適正な価格で取り引きすることを目標に、様々な取り組みをされていることを強く感じました。私自身の会社は印刷会社ではありませんが、同じ製造業として物流や賃金の問題など、抱える課題は全く同じです。この青年部では会員企業の売上向上、そして利益を出していけるよう様々な課題に対し、活発に情報交換しながら活動を行っていきたいと思いますので、皆様のご協力、ご参加をお願い申し上げます」と開会挨拶をしました。

続いて、司会より本日の通常総会は定足



総会の様子

数を満たした旨が告げられ、森脇青年部部長が議長に選任され議案審議に入り、第1号議案から第3号議案が賛成多数で可決され、すべての審議を終了しました。

決議事項

- 第1号議案 令和5年度 事業報告及び収支決算に関する件
- 第2号議案 令和6年度 事業計画案及び収支予算案の承認の件
- 第3号議案 任期満了に伴う役員改選の件

委員会・懇親会

総会後は委員会を開催し、教育研修委員会と組織交流委員会に分かれ、期中の青年部行事（交流会、年末情報交換会、研修会）について活発な意見交換を行いました。その後、引き続き同ホテルの別会場にて懇親会を開催しました。**芳生グラビア印刷(株)**の**米谷部員**の司会進行によりスタートし、総会において引き続き部長に選任された森脇青年部部長から「本年度は昨年同様の役員で活動しますが、次年度は青年部規約により役員が複数名卒業を迎えます。一方で新たに加入いただいた方や担当者交代された方もおられ、青年部の平均年齢が年々若くなっていることを実感しています。少し先の話ですが、来年は青年部全国大会を関西主導で関西万博と絡めて開催します。そこに向けても会員の皆様の力が必要ですのでご協力をお願い申し上げます」と挨拶しました。

その後、乾杯の音頭では**木田守彦青年部理事（昭和グラビア印刷(株)）**から一言、「私は今期が青年部最後の年となります。思い起こせば青年部に加入して20数年経ちます。その頃はもちろん私が一番若手で、その当時の主要メンバーは卒業して今ここにはおられません。そうやって世代交代が進んでいく訳ですが、多くの若いメンバーに加入いただいて青年部が若返っていくのはとても喜ばしいことだと思います。その若い力で関西からこの業界を盛り上げていただきたいと思います」と皆に伝え乾杯の発声をし、賑やかに宴会が開催され、名刺交換や情報交換、歓談の輪が繰り広げられました。



木田理事の音頭で乾杯

途中、新加入者、青年部担当者交代となる新旧担当者からそれぞれ一言ずつ挨拶をいただき、最後は**竹下 元青年部副部長（株ダイコー）**の中締め挨拶と、突如指名され登壇した**新生紙化工業(株)**の**吉田会員**の見事に父を完コピしたかのような関西グラビア名物の万歳三唱で会場が爆笑の渦で包まれる中、午後8時30分すべてを終了しました。



竹下副部長の中締め挨拶



新会員・新担当者挨拶



(株) SCREEN GP ジャパンの
佐々木新会員



(株) アンド・アイの尾崎新会員



(株) タツカワグラビアの
達川新会員



新担当のDIC グラフィックス(株)
の宮本会員



新担当の(株) トリネックスの
畑中会員



新担当の新生紙化工業(株)の
吉田会員

懇親会 snapshot



突然の指名で万歳三唱する吉田会員